

大都市ひとりぐらし高齢者の概要 －墨田区ひとりぐらし高齢者実態調査結果から I－

プロジェクト1 RA
東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科博士後期課程
申 光石

I. はじめに

昨年度、福祉社会開発研究センター（大都市グループ1-1）は、東京都墨田区高齢福祉課と協定を結び「墨田区ひとりぐらし高齢者実態調査」を行った。

本調査対象地域である墨田区は、2008年度の高齢化率21.7%、後期高齢化率は9.5%に達しており、今後ますます高齢化が進展すると見込まれている。

高齢化の進展によって、ひとりで暮らす高齢者が増え、閉じこもりやいわゆる「孤独死」といった地域における福祉課題の顕在化が予想される。こうした現象はもちろん本調査対象地域だけに限ったことではなく、すべての地域に共通して生じうる現象である。その意味において、今後の福祉社会を形成していく上では、このような課題やリスクを抱えながら地域で生活する高齢者をどのようにして支えていくかということが一つの重要な論点となろう。

本調査は、こうした問題意識のもと墨田区で生活するひとりぐらし高齢者の生活実態を明らかにすることを目的として行われたものであり、墨田区はこの結果に基づいて本年（2009年）度から新たな取り組みを始めている。具体的には、高齢者支援ネットワークの構築について「高齢者みまもり会議」を定期的に行い、その結果を踏まえつつ、見守り協力員の募集及び研修等の活動を計画的に行うなどの対応を開始している。

また当センターでも、この調査で得られたデータを再分析し、その結果をふまえて大都市における高齢者

を支えるための地域支援システムのあり方について今後検討していく予定である。本報告書では、大都市グループの統括である小林良二（東洋大学福祉社会デザイン研究科）、研究員の後藤広史（東洋大学社会学部）、RAの相馬大祐（東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科）及び申光石（東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科）が共同研究を行った結果のうち、後藤、相馬、申の報告を掲載する。なお、調査全体の単純集計に関しては、当センターの資料としてまとめてあるのでそちらを参照されたい¹⁾。

II. 調査の概要

それぞれの分析に入る前に、調査の全体的な概要について述べておく。

①調査対象

2008年（平成20年）7月31日現在、墨田区内に在住する65歳以上の独居世帯で、特別養護老人ホーム入所者を除く14,813人（全数）。抽出台帳は区の住民基本台帳を使用。

②調査方法

郵送法

③調査期間

2008年（平成20年）8月4日（月）～同年8月31日

④回収率

有効回収数（率） 6,002件（40.5%）

なお、回答者の回答パターンから、以下のような支援の緊急性が高い課題をもつグループに属する回答者（1,496人）のうちインタビュー調査に同意が得られた（36人）に対して、2次調査を行っている。

- ① 社会的な交流の保持に課題が多いグループ
- ② 「いざという時に頼れるネットワーク」に課題が多いグループ
- ③ 「住まい」に課題が多いグループ
- ④ 「健康」「生活機能」に課題が多いグループ
- ⑤ 「家計・経済」に課題が多いグループ

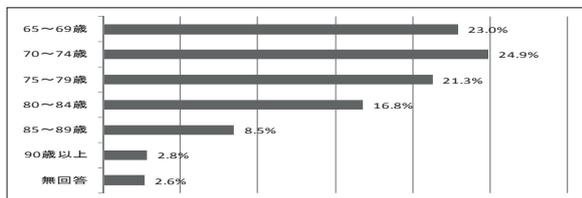
Ⅲ. 調査対象者の基本属性

次に、調査対象者の概要を紹介する。

（1）年齢別

全体の6002人の内、65歳～69歳が1378人（23%）であり、70歳～74歳が1497人（24.9%）、75歳～79歳が1280人（21.3%）、80歳～84歳が1010人（16.8%）、85歳～89歳が508人（8.5%）、90歳以上が170人（2.8%）、無回答が159人（2.6%）である。また、前期と後期に分けてみると、前期高齢者が47.9%、後期高齢者が49.5%である。

図表1 年齢

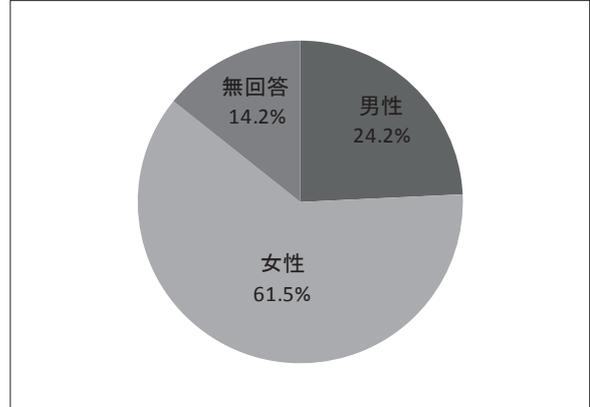


（2）性別

全体の6002人の内、男性が1455人（24.2%）で、女

性が3692人（61.5%）、無回答が855人（14.2%）であり、女性が多くなっている。

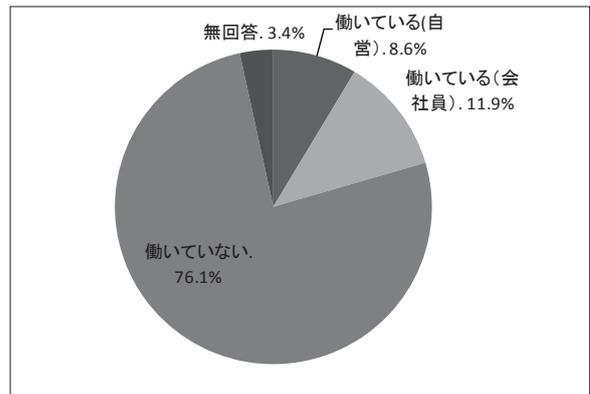
図表2 性別



（3）就労形態別

全体の6002人の内、「働いている（自営）」が515人（8.6%）、「働いている（会社員・その他）」が714人（11.9%）、「働いていない」が4568人（76.1%）、「無回答」が205人（3.4%）であり、働いていない高齢者が多くなっている。

図表3 就労形態

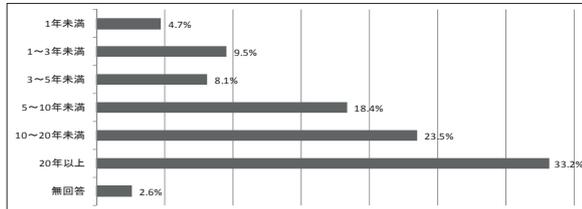


（4）ひとり暮らしの期間

全体の6002人の内、一年未満が283人（4.7%）で、1～3年未満が572人（9.5%）、3～5年未満が487人（8.1%）、5～10年未満が1102人（18.4%）、10～20年未満が1411人（23.5%）、20年以上が1992人（33.2%）、

無回答が115人（2.6%）であり、長期の高齢者が多くなっている。

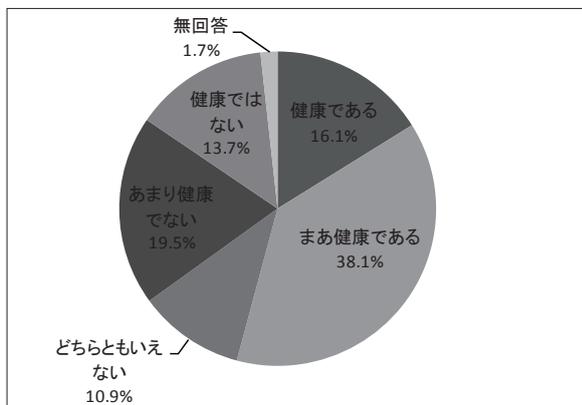
図表4 ひとりぐらし歴



(5) 健康状態別

全体の6002人の内、「健康である」が966人（16.1%）、「まあ健康である」が2285人（38.1%）、「どちらとも言えない」が652人（10.9%）、「あまり健康ではない」が1171人（19.5%）、「健康ではない」が824人（13.7%）、「無回答」が104人（1.7%）であり、健康であると思う高齢者がやや多くなっている。

図表5 健康状態

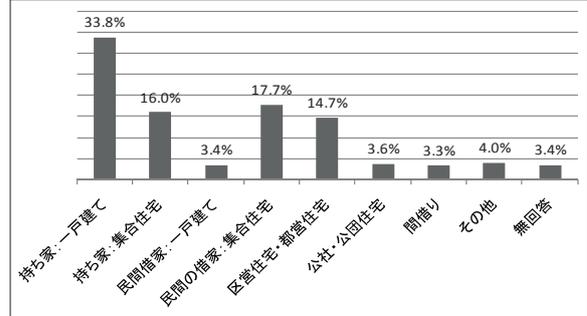


(6) 居住形態

全体の6002人の内、「持ち家：一戸建て」が2030人（33.8%）、「持ち家：集合住宅」が958人（16%）、「民間の借家：一戸建て」が207人（3.4%）、「民間の借家：集合住宅」が1064人（17.7%）、「区営住宅・都営住宅」が882人（14.7%）、「公社・公団住宅」が218人（3.6%）、「間借り」が198人（3.3%）、「その他」が240人（4%）、「無回答」が205人（3.4%）であり、一戸建てが一番

多く、続けて集合住宅（民間の借家、持ち家）と区営住宅・都営住宅が多くなっている。

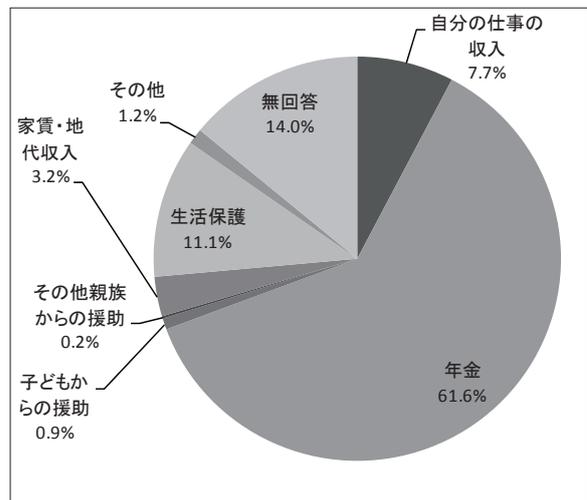
図表6 現在の住宅



(7) 主な収入

全体の6002人の内、「自分の仕事での収入」が461人（7.7%）、「年金」が3700人（61.6%）、「子どもからの援助」が54人（0.9%）、「その他親族からの援助」が10人（0.2%）、「家賃や地代による収入」が191人（3.2%）、「生活保護」が669人（11.1%）、「その他」が75人（1.2%）、「無回答」が842人（14%）であり、年金が一番多く、次が生活保護、自分の仕事の収入の順になっている。

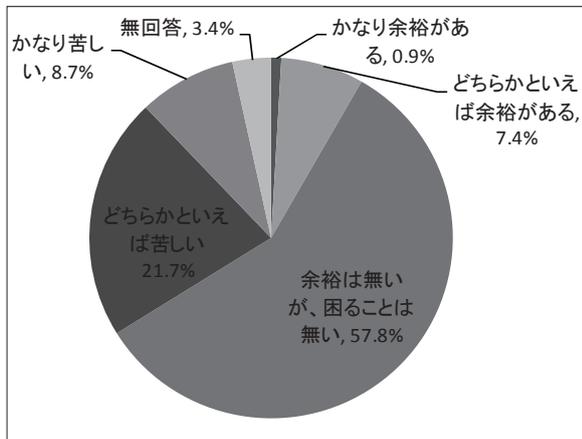
図表7 主な収入源



（8）家計状況

全体の6002人の内、「かなり余裕がある」が54人（0.9%）、「どちらかといえば余裕がある」が444人（7.4%）、「余裕はないが困ることはない」が3472人（57.8%）、「どちらかといえば苦しい」が1305人（21.7%）、「かなり苦しい」が521人（8.7%）、「無回答」が206人（3.4%）となっており、余裕はないが困ることはないが一番多く、次がどちらかといえば苦しい、かなり苦しいが続いており、家計状況は苦しいと思う高齢者が多い結果になっている。

図表8. 家計の状況



以下の論文では、これらの調査対象者に関する分析結果を報告する。

【注】

- 1) 東洋大学福祉社会開発研究センター資料2（2009）「墨田区ひとり暮らし高齢者調査 第1次結果資料（2008年度実施）」